

令和6年平塚市自殺対策会議

「いのちと暮らしの総合相談キャンペーン（仮）」案

背景

- 「いのちと暮らしの総合相談会」相談者に対し、違う専門分野の相談員が複数で対応
令和6年12月「いのちと暮らしの総合相談会」は相談予約者0件だったため開催について検討
⇒ 様々な場所や時間で総合相談会実施できればよいが会場や相談員の調整などには限りがある
- くらしサポート相談を土日に特設し周知したところ、平日に来られる人がわざわざ土日に相談に来所した事例
⇒ 既存の相談窓口の案内も必要だが、特別な相談窓口のお知らせだと相談につながる、という気付き
↓
いつもの相談でも、相談員分散型「いのちと暮らしの総合相談会」
のように周知すれば、相談につながる人が増えるではないか
↓
自殺対策会議や自殺対策庁内会議というネットワークを活かせば、実施できるのではないか

キャンペーンの概要

- ・複数の相談機関が、同時に、期間限定でそれぞれの相談窓口を周知（できれば同日）
- ・「29日は肉の日」「いちごスイーツフェア」のようなイメージ
- ・相談窓口は、いつもの相談業務を行う

期待される効果

- ・キャンペーンにすることで既存の窓口を周知 ⇒ 困っている人が相談窓口につながりやすく ⇒ 悩みの複合化を防ぐ
- ・キャンペーンを実施する機関同士が互いを知り、必要に応じて相談をつなぐ ⇒ 支援体制づくり

実施機関

（第1段階）自殺対策委員の所属する機関において、市民からの相談を受け付けている部署・窓口等

↓

（第2段階）今後検討

対象者

基本的には市内在住、在勤、在学の人向けとする
対象者以外の相談も断るのではなく、受け止めて適切な窓口へつなぐ
実施機関の特色・役割に合わせた周知、対象者を決めて構わない

予算

なし

スケジュール

令和7年2月 自殺対策会議 キャンペーン実施について協議
3月 自殺対策強化月間 **キャンペーン実施**
9月 自殺対策週間
令和8年2月 自殺対策会議 キャンペーンの振り返り
3月 自殺対策強化月間

以上